



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

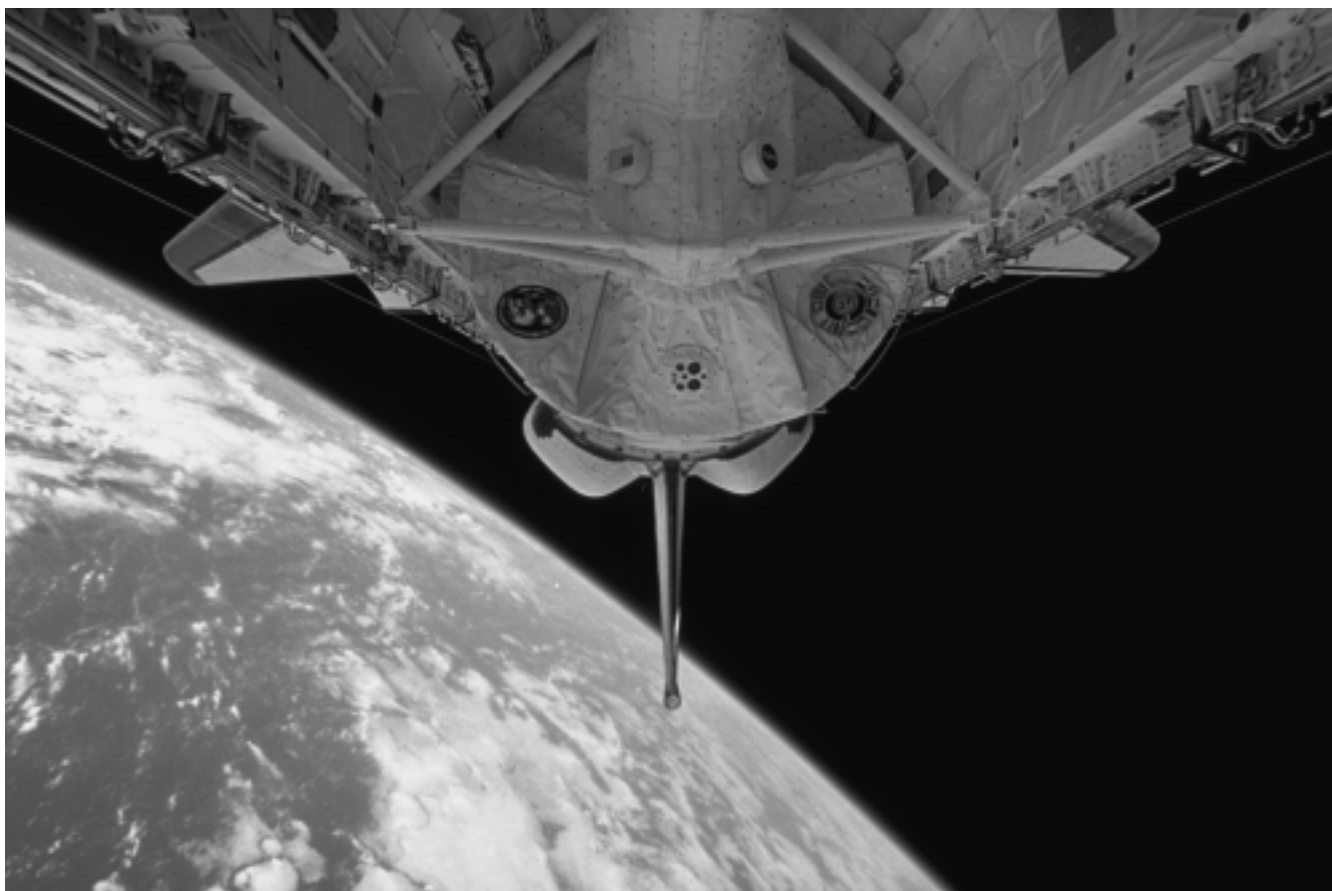
JHFレポート

11・12月号
2000年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>

20世紀から21世紀へ...飛行の喜びを未来へ伝えたい。



戦争の世紀といわれる20世紀は、飛行の世紀でもある。
人間はこの100年にさまざまな翼を生み出し、育ててきた。
あるものは宇宙に飛び出し、あるものは多数の旅客を運び、あるものは殺戮の道具となり、
そして、あるものは「鳥のように自由に飛ぶ」喜びを人類にもたらした。
あと少しで始まる新世紀に、さらにその未来に、この純粋な喜びを伝えていきたい。

JHFレポート 11・12月号

Contents

- P2 **特集 1** JHFの活動
2000年度中間報告
JHF経営のしくみと役員選挙について
- P4 **特集 2** 空中接触
他機がよけてくれると思うな!

- P7 あなたはどう考える?
P8 県連だより
P9 県連ニュース 平谷村に義捐金を
P10 委員会の動き JHSC型式登録機
P11 理事会ダイジェスト 理事活動報告
P12 @sky 空の楽しさ満載の情報ページ。



JHFの活動

JHFがどんなことをしているか、あなたは知っていますか。
会員登録が始まり新たなスタートを切った連盟の「いま」。

新たなスタート

2000年1月1日、(財)日本航空協会のフライヤー登録(航空スポーツ登録制度)がJHFに移管され、念願のフライヤー会員登録が始まった。昨年までは、会員から集めた会費によって運営するという社団法人として本来あるべき姿ではなかった。これで、一番の課題だった会費制度が確立し、JHFは今年、新たなスタートラインに立ったといえる。会費制度だけでなく、他の不自然な

ところも「本来あるべき姿」にしていこうと、いろいろな規則の見直しや、時代に即した新しいルールの検討が進んでいる。

今年度の6月総会で、選挙管理委員会規約の制定が決まったのも、そのひとつ。それまで、選挙管理委員会に関する決まりは、理事会が決定する「細則」だった。しかし、理事や監事の選挙が公正に行われるよう管理する委員会の決まりを、ほかでもない理事会で決定するのは、おかしい。そこで、総会で正会

員が決定する「規約」にしたわけだ。

これまでJHFは、まず目前の問題を乗り越えるのが精一杯だった。多くの関係者が「空を飛ぶ楽しさを広めたい、いつまでも飛び続けたい」と、連盟活動にエネルギーを注入し努力してきたが、何年も先のことを見越して計画を立てる余裕もなく、精一杯を繰り返すうち、選挙委員会の細則のように、いくつもの矛盾を生んでしまった。

会費収入の途を確保した現在、これらの矛盾をなくし、5年後、10年後、さら

JHF経営の仕組みと役員選挙について

JHF選挙管理委員会 委員長 宮野周三

今年6月のJHF総会で、「役員選挙並びに選挙管理委員会に関する規約」の制定が決まり、この規約に従って新たな選挙管理委員会が、次回の役員選挙に向けての準備活動に入っています。

JHFは、民法に定められた社団法人として文部大臣の許可を得た団体です。その団体の役員に立候補者を募り、定められた手続きを公正に管理執行して、社会的に責任ある役員を確定することが、選挙管理委員会(選管)の仕事です。

一定の資格を満たす方なら誰でも役員に立候補できますので、以下の「JHFの仕組み」についてご理解いただき、積極的に参加していただきたいと思います。

選管からの初めての広報となる今回は、「社団法人とは」という視点でお話します。次号で役員に立候補・就任する方の資格条件についてお話ししたいと思います。

年明け早々には選挙公示、そして現役員の任期切れを迎える3月、JHF総会での役員選挙実施の段取りとなります。

皆様のご質問にもお答えしたいと思いますので、疑問のある方は11月16日までにJHF事務局を通じお送りください。

FAX.03-5840-8312

Eメール:jhf@skysports.or.jp

1. 社団法人

社団法人とは、一定の目的を社会的に行うために民法に基づき設立された人的結合組織で、法的に権利と責任を認められています。同好会のような、ただの人の集まりの場合は任意団体となり、法的な権限は制限されますが、社団法人は社会的な法行為(訴訟を起こす、財産を所有する、融資を受ける、物や権利の売買をする、等)を行うことができます。

「ハンググライディングの普及と振興およびハンググライディングを通じて国民の心身の健全な発展に寄与する」ことを目的とするJHFは、文部大臣により許可された法人組織です。社団法人として様々な法行為を認められる一方、法行為責任を問われることにもなります。

2. 社団法人の特徴

以下の4点が社団法人の大きな特徴です。

- 1) 構成員である社員(会員)がいること
- 2) 基本的事項を定めた定款があること
- 3) 社員全員で構成される社員総会が最高意思決定機関としておかれていること

4) 社員の滅失が解散事由とされること

JHFでは、ここでいう社員が各都道府県連盟(正会員)となります。社員といっても、通常の会社の社員ではなく、むしろ株主としての存在です。通常の会社の社員にあたるのは、JHFの職員です。

定款は、憲法にも等しい大切な規則です。したがって簡単に定款の変更はできません。JHFの場合、変更には、会員数の3/4以上の議決と、かつ文部大臣の許可を受ける必要があります。

正会員である都道府県連盟により構成される総会が、JHFの意志決定の最高機関となります。連盟の存在にかかわる重要事項は、総会で決定されなければなりません。

3. 社団法人は公益法人

社団法人は、社会全般の利益を目的とし、法人や特定の一部の者の利益を求めないことを前提に、はじめて許可されています。したがって、営利を目的とすることはできません。しかし、公益目的達成の手段として収益事業を行うことは許されています。

JHFはその目的を「ハンググライディングの普及と振興およびハンググライディングを通じて国民の心身の健全な発展に寄与

にその先を視野に入れた計画を立て、そのビジョンに基づいた事業を展開することが可能になった。また、そのようにしていかなければ、組織の成長は望めないだろう。JHFにとって、これからは「勝負」だ。フライヤーひとりひとりが、連盟を育てるのは自分たちだという意識を持つなら、JHFはひとまわりもふたまわりも大きく成長し、フライヤーが望む姿により近付くことができるだろう。

2000年度の事業

以下のような事業方針のもと、JHFは今年度上半期を走ってきた。

ハング・パラ振興の促進
一般の人々とフライヤーが一体になれるような催しを考える。

国民に親しまれるスポーツに日本体育協会や日本レクリエーション協会等への加入を促進。また、厚生施設を慰問したり、ハンディキャップのあるフライヤーを後援する。

会員へのサービス向上
組織機能を強化、事務局機能を充実さ

せる。正会員の組織作りを手伝う。

教員再教育とスクール支援
情報を迅速に提供し、JHF白書を発行する。教員更新講習会やスクーリングセミナー等に取り組む。また、スクール登録制度を推進する。

安全性の向上
日本ハンググライディング安全性委員会のあり方を見直す。フライト環境を整備する。レジャー航空無線の積極的活用。

下半期に入った現在、未だ構想の段階を脱していないものもあるが、多くの協力を得て、いくつもの事業が着々と進行している。

そのなかで注目されているのが、教員更新講習会だろう。教員の質を高めるため、この11月に初めて実施する。まずは教員技能証の更新時期を迎える教員を中心に希望者に参加してもらおう。今回は、参加が義務ではないが、いずれはこの講習会を受けなければ更新できなくなる方向だ。今回は一ヶ所・一度だけの開催なので、次回はもっと参加しやすいように、何ヶ所かで開く案が検討される。

目新しいところでは、厚生活動補助事

業がある。フライヤーが草の根的に行っている社会福祉活動に関する調査をし、活動実績のある個人や団体のうちモデル活動としてとりあげたものに謝金を交付し、活動を奨励する。また、その活動について広報していく。調査に対して報告のあった活動は、地域の清掃、クリスマスに乳児院を訪問、モーターパラグライダーで空から撮影、聾啞者のためのパラグライダー無料体験講習会、港湾へのゴミ不法投棄禁止を呼び掛ける、等々。

安全性委員会が、特別委員会から常設委員会のひとつになったのは、記憶に新しい。安全性委員会運営規程もでき、新委員6名は元委員の力を借りて活動を開始した。このほか、さまざまな事業が進行中だ。残念ながら、すべての要となる事務局の機能強化が遅れがちではあるが。

2001年3月には次期役員選挙が行われる。選挙で実際に投票するのは正会員で、フライヤー個人ではないため、身近なものとして捉えるのは難しいかもしれないが、選挙はJHFをよりよくするための絶好の機会だ。このチャンス、大切にしたい。

する」と定款にうたい、社会全般の利益をめざしています。このため、構成員である正会員の私益を目的に事業を行い、その利益を私的なものとして懐に入れてしまうことは禁じられています。ただし、収益を上げる事業を行い、その収益を公益のために使うことは許されています。

4. 社団法人の機関

民法によって、社団法人には「社員総会」「理事」の二つの機関を必ず置くように定められており、これを法定機関と言います。

JHFでは、社員総会にあたるのが、JHF総会と呼ばれている機関です。JHFが社団法人として正しく行動するためには、構成員である都道府県連盟が個々に活動するのではなく、総会機関を通じて意思表示を行う必要があります。

総会は、最高意志決定機関として決算・予算の承認、法人の事業計画を決定します。また、法人の業務運営を行う理事や、理事の業務運営を監査する監事を選び、JHFの活動を委託します。つまり総会で意思決定した事業を「理事」という機関に経営として実行するよう託すわけです。

5. 理事

法定機関としての「理事」は、対外的には法人を代表する機関です。対内的には総会での決定事項を実際に執行する業務機関です。同一の親族など特別の関係にある者が多数を占めることはできません。

JHFの理事は、実務上JHFの代表者として対外的に対応します。しかし、JHF内部では、総会の決定事項にしたがって、総会から委託されて業務を実行する経営の役割を果たします。

また、JHFは公益を目的としているため、理事という立場でJHFの権利や義務を果たしていく上で、一部特定の者の利益や収益を得る機関とみなされることは避けなくてはなりません。

6. 理事会

理事会は、理事が複数いるとき、理事の合議体として円滑な事務執行が行われるよう、定款により定められます。理事会の構成員は、理事です。理事以外の出席も可能ですが、表決への参加はできません。

理事は、個人でもJHFの権利や義務にかかわる法行為を行うことができます。しかし、複数の理事がそれぞれ勝手に活動しては、JHFの目的を達成することはできませ

ん。複数の理事がJHFの運営を間違いなくスムーズに行うために、理事会が必要です。定款でも理事と理事会に関する事柄が決められています。

理事会の決議事項には、次のようなものがあります。

- 1) 総会決議事項の執行に関するもの
- 2) 総会に提出する議案に関するもの
- 3) 事業計画および予算、事業報告および決算などの案の作成
- 4) 諸規定の作成と内容の決定
- 5) その他

7. 監事
監事は、法人業務、財産運用、会計処理などの監査を行うことから、法人業務の適正化を図るために必要な機関で、法人設立許可の条件となっています。

監事は、理事から派生したJHF経営活動の機関ではなく、JHF経営活動やJHFの資産運用が、総会決議により意思決定した内容に従って行われているか否かの監査を行う機関です。

もしJHFが総会の意思に反した行為を行っていると判断したときには、総会機関や主務官庁への報告義務を負っています。

空中接触

他機がよけてくれると思うな！

空中接触を避けるために私たちができることは何か、ベテランパイロットの3人に貴重なアドバイスをもらった。初心者でもベテランでも、安全なフライトを行うのは各自の責任。さまざまな状況を想定し、危険回避の方法を知らねばならない。空中では「相手がよけてくれるだろう」という甘えは許されないのだ。

まず、フライトルールを守ること！

山形県ハング・パラグライディング連盟 理事 植木 亨

ある大会中、ひしめきあうガーグルの中で突然「バサッ」とキャノピーから音が聞こえてきました。何だろうと見上げると、そこにはエアインテークに絡みついたパイロットの姿が見えるではありませんか。驚くことに、そのパイロットは私と向かい合うようにしているのです。大勢のパイロットが右旋回でサーマルにしがみつ中、どうしてそのような状態にいるのかわかりません。とっさにフルストールに入れての回避を試みました。しかし、完全に絡みついていたパイロットははずれることもなく、「だめだ！」と判断をしてすぐにレスキューパラシュートを投げました。すぐに開傘したパラシュートはしっかりと機能を果たし、パニック状態にある相手パイロットをぶら下げながら、そのまま樹木の中に吸い込まれていきました。幸いお互いに怪我もなく無事に済みました。

どういう状況でこんなことになったのかを確かめるために、私は相手のパイロットの話を聞いて驚きました。それは、ガーグル内では旋回方向を他機に合わせるといった初歩的なフライトルールはもちろんのこと、下のパイロットはキャノピーがあるために自分の上は見えないといった当たり前ことすら理解せずに大会に出ていたのです。これには背筋がゾーっと寒くなる思いをしました。

この接触の原因は、一つのサーマルで何機ものグライダーがフライトをし、皆、周りに気を配りながらやっと統制がとれているギリギリの状態の中で、ただ一人のパイロットがフライトルールをまったく理解せずにガーグルに進入したことと思います。

問題外の話のようですが、同じような特性を持ったパラグライダー同士でも、ル

ルを無視すればこういった事故は防げません。まして私のホームエリアである「十分一山」では、ハンググライダーとパラグライダーと一緒にフライトし、しかもテイクオフもランディングも同じ場所を共有しています。このような異なる滑空比のものが安全にフライトするためには、まずはルールを守ることが絶対条件になります。

数年前になりますが、ハングとバラの接触事故がありました。当事者は、十分一山をツアーで訪れていたハング初心者の学生と、地元のパラフライヤーでリッジソアリングを覚えてたの初心者でした。お互いにルールは理解しながらも、まだまだ初心者でコントロールがおぼつかなかったということもあったでしょう。たまたま向き合った高度がほぼ一緒の高さで、ギリギリの所までお互いに避けませんでした。とっさにパラフライヤーは足でハングのリーディングエッジを蹴り押し、ぶつかるまでにはいたりませんでした。しかしハングは突然の衝撃で逆さまになり、幸いにも木に引っかかって本人は無傷でしたが、機体の方はよくぞここまで壊れたというぐらい、ボロボロになってしまいました。

この事故を検証してみると、まずお互いに初心者でありフライト経験も満足にないことを除いても、お互いに相手が避けてくれるだろうという甘えの「だろうフライト」をしていたのだと思います。接触事故の多くは、双方とも見ていないとか、ルールを無視する、相手が避けてくれるだろうという「だろうフライト」によって起こると思います。回避策としては、ルールを守るのももちろんのこと、やはり「自ら避ける」という考えが大切なことだと思います。

たとえばこんなこともあります。Aさん

とBさんが一緒にセンタリングをしているとします。Aさんは経験も豊富でセンタリング中もBさんから目を離しません。一方Bさんはフライトに一生懸命でAさんのことにはまったく目がいていません。地上に降りてから、AさんがBさんに一緒に飛んでいたことについて話をすると、Bさんはまったく気付いていなかったという次第です。

これは初心者にはよくあることで、空中ではパイロットの思考は地上にいる時に比べて3分の1に低下すると言われています。フライトも経験を積んで余裕がでてくると、その思考低下も防ぐことができますが、初めの頃はなかなか難しいことと思います。しかしながら、ちょっとしたトレーニングでとても効果があげられます。それは、空中で2桁以上の計算をして、頭の体操をし脳に刺激を与えるというものです。またガムを噛むのも効果的です。

こういったことをフライトの度にしていると、徐々にではありますが空中での思考力が上がってきます。是非とも試してみてください。

また、エリア管理を行う立場からは、ハングとバラのランディングのターゲットを別に設けることにより、アプローチ時の接触を避けるようにしています。バラは風上側のターゲットを、ハングは風下側のターゲットといった具合に分けることにより、滑空比の違いからアプローチの場所に違いが出てきます。このことにより、お互いのファイナルグライドを妨げることなくランディング場に降りることができます。周りに障害物のない空間の広いエリアだからできることなのかもしれませんが、こういったちょっとしたことで接触を防げるのではないかと考えています。

無理して突っ込むより、自分のために回避する。

茨城県ハング・パラグライディング連盟 理事長 板垣 直樹

トップでテイクオフし、サーマルを探して尾根上を飛び、弱いサーマルにヒット。(この時は時間が早かったため他に飛んでいるハング、パラはいなかった) 尾根を右に見ながら流していったので左旋回を始める。リフトは弱くゲインすることなく徐々に高度を下げていったが、全体の状況から考えると、ここで粘るしかなかった。山際を旋回しながら100mほど下がった頃からリフトが強くなり始めた。斜面をなめるように旋回を続け、少しづつだが高度を上げ始めた。ここまでにかかった時間はテイクオフから8~10分ぐらいだったと思う。

上昇を始め数周旋回したところで、テイクオフポイント方向から近づいてくる機体を確認。初めに機体を確認した時の大きさから考え、この機体との距離は200~300mほどで、高さは50~60m上だったと思う。この時、私はタイトなターンで旋回し上昇していたので、この近づいてくる機体避けようとする考えはまったくなかった。しかしその機体は次の1周で、すぐ近くまで来ていた。私が山際からその機体の正面に向いた時には、ほぼ同高度で私の旋回ラインの山側をこちらに向かって近づいていた。私はこの時点で、このまま旋回を続ければ、この機体とかなり接近するか、場合によっては接触することを予測できていた。ここで旋回をやめてこの機体にコースを譲るか、ブッシュして旋回を小さく先にコース上に入るか、どちらかを選択しなければならなかった。

私はこの機体のパイロットをよく知って

いて、不用意に近づいて来るその旋回が、一緒に飛ぶものにとって危険なので、何度か注意をしていた。

この時は、粘った末によろやく上がってきたこともあり、コースを譲らず、この機体避けるように小さい旋回でソアリングを続ける選択をした。

先にコースに入り、この機体に対して後ろを向き、上昇を感じてベースバーをブッシュした時に、今までに感じたことのない強い衝撃を感じた。次にノーズが上がって失速に入っていくのがわかった。瞬間的に完全に機体が止まったような感じを受け、その後、フラットスピンの近い状態の激しい右回りのスパイラルに入った。ベースバーから手を離すことができず、旋回を止めようとスピードをつけて当て舵をした。何回まわったかは憶えていないが、10回ぐらいだったと思う。運良く旋回を止めて滑空状態に戻すことができた。この時更に私に運があったのは、あと30mほど落ちていたら完全に山沈していたことと、たまたま回復し滑空状態に戻った方向が山側ではなかったことだ。

回復時の高度は約250m、ぶつかる前の高度は400mほどと記憶しているので、僅か数秒で約150m落ちたことになる。ランディング場までの距離は約1.5km。この間には民家と林が点々としているので他に選択の余地は無く、すぐさま機体をランディング場に向けた。翼端を見ると、トレーリングエッジからリーディングエッジにかけて完全にセールが破けており、リーディングエッジ

のパイプも完全に外側に向かって曲がっているのが確認できた。私はなんとか胸元ぐらいまでベースバーを引き、アップライトに完全に身体をつけた状態で直線飛行を維持し、ランディング場まで機体運んでいくことができた。フレアーはかかったが、セールが破れた方の失速が早く、少し取られた形でボディーランディングした。

*

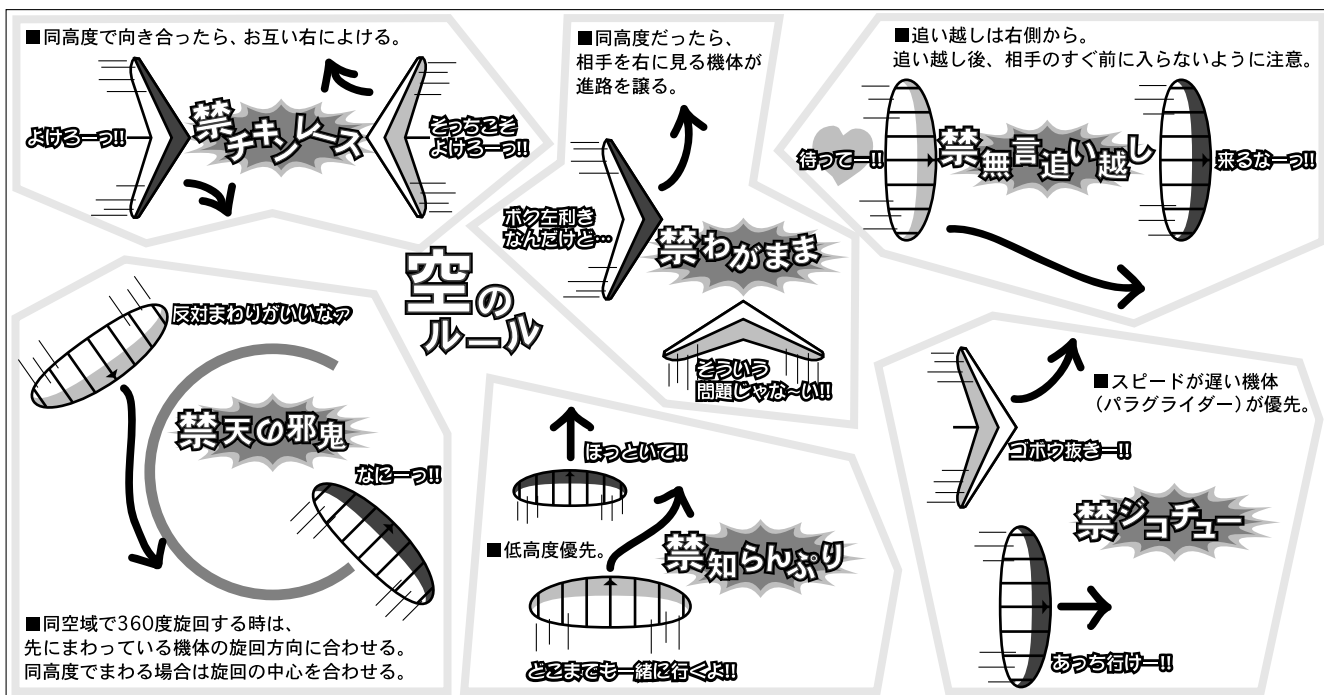
私の機体の状況は、右側の翼端側から2番目と3番目のパネルのセールが、トレーリングエッジからリーディングエッジにかけて完全に裂けていました。また、その部分のパイプ(スパー)はおそらくぶつかった時の衝撃のためだと思いますが、外側に30°ぐらい曲がっていました。相手の機体はフロントワイヤーで当たったためか、全く損傷は無く、接触した後もそのままフライトを続け、私のようにランディングして来ました。

比較的大きな事故でしたが、どちらのパイロットも無事にランディングできたのは本当に奇跡的で幸いなことでした。

この事故の当事者はどちらもパイロット証を持っていました。結果的に加害者になってしまったパイロットのフライト時間は300時間ほどで、被害に遭ったパイロットのフライト時間は倍の600時間ほどでした。

事故当時のこの空域には他に障害になる機体は無く、どちらかが早めに回避動作をしていれば、このような事態になることはありえませんでした。

この場合、両者の判断ミスとして200~300mの距離が上げられます。これは飛んで



いれば20～30秒で到達してしまう距離です。サーマルで1周の距離だということをもっと早めに考えておくべきだったでしょう。

もう一つは、どちらか1機がソアリングして上がって来る時は、たとえ高度差があっても、サーマルの上がり方等によってその高度差がどうなるか!を想定して、それ以上に余裕を持っていないといけないということです。

接触事故は、まったく相手を確認できず

に事故に遭う場合もありますが、お互いに確認できていたにもかかわらず事故に遭うことも少なくありません。「相手が避けるだろう」とか「相手の機体の方が上級機だからイだろう」といった感じ です。

まずはそういった考えを捨てて、安全のために自分から避けるようにしましょう。私はどんな場合でも、相手は自分より経験が少ないパイロットだと考え、自分の安全のために避けるようにしています。もちろん初心者だけでなく他の機体(パラやセー

ルブレン等)にプレッシャーを与えるような飛びはしないように日頃から心掛けています。

これからソアリングを始める人も、すでにソアリングを楽しんでいる人も、無理して突っ込んで危ない思いをするよりは、「安全に降りればまた次があるっ!」ということを考え、余裕を持ったフライトを楽しんでください。

互いの翼の特性を理解しあうことから始める。

広島県ハンググライディング連盟 崎山 和弘

近年ハンググライダーとパラグライダーの空中接触が多発し、各地で問題になっています。私たちの飛んでいる神の倉山でも数年前に一度接触事故がありました。その後みんなでそのことについて話し合いもしました。そしてその後はこういった事故は無くなりました。

なぜハンググライダーとパラグライダーの空中接触が頻繁に起きているのでしょうか。考えられる原因のひとつに、一緒に飛んでいるフライヤー同士が互いの翼の特性をきちんと理解していないことが考えられます。ハンググライダーとパラグライダーだけではなく、双方の初級機、上級機によってもずいぶん特性は違ってきます。同じ上級機でも空気の流れが乱れたときに粘り強い機体とか、そうでない機体もあります。また、テクニックの差によってもグライダーの飛ばし方が変わってきます。したがって相手のグライダーが自分のグライダーと同じ動きをすることは限りません。そして自分の予想以上の挙動を相手機がすることによって、自分のクリアランスが一気に狭まります。時にはそれがニアミスにもつながります。

また、他のグライダーが視界に入らないことから空中接触につながる場合もあります。それは一番大切な自分の安全クリアランスをとっていないということなのです。特にフライヤーの多いエリアではありがちです。

たとえばひとつのガーグルに入っているグライダーが多すぎるのがよくあります。コントロール性のいいグライダーに乗っているフライヤーや、ベテランフライヤー同士のスクラッチだとクリアランスはかなり少なくても大丈夫ですが、サーマルの乏しい日などはひとつのサーマルにいるんなグライダーがひしめき合い、完全にセンタリングラインが重なっている状態に陥ることがあります。サーマルが乱れてくるとその安全なクリアランスはもっと狭まってきます。そして、いざというとき対処しきれない距離になった時に空中接触は起きま

す。実際に間一髪のところ、フルロックや急旋回などで空中接触を免れたことのある人は多いはず。私たちは空を飛ぶ以上、ほんの少しのミスが重大事故につながるというリスクを背負っているのです。しかも死亡事故につながる空中接触もごく身近なところにあるのです。

私たちの飛んでいる神の倉山では、空中接触防止のためのルールはなく、またハンググライダーもパラグライダーも一緒に飛んでいますが、ほとんどニアミス等もありません。なぜなら、ひとつのエリアで飛んでいる人数が少ないこともあるのですが、神の倉のフライヤーたちは各々のグライダーの特性をよく理解し合い、どういう相手とスクラッチしているかを知りながら、そのときに応じた自分のクリアランスを保って飛ぶようにしているのです。

日本の各エリアでは安全に飛ぶためにさまざまなローカルルールが作られ、それが実践されているいろいろな効果を得ています。私たちのエリアでもいくつかのエリアルールがありますが、空中での複数のグライダーがどうするべきかというものについては、航空法や常識以上のローカルルールはありません。この点で私たちのエリアは手薄に見えるかもしれませんが、ルールだけで安全を手に入れることはできないのです。たとえば一番混雑しやすいテイクオフ前は同一方向の旋回をするという、かなり効果のあるルールもあるのですが、一般のフライヤーたちが飛ぶときに同一方向の旋回にすればうまくスクラッチできるかというところではなく、ルールだけに頼ることはたくさん危険が潜んでいます。

私たちは常識的なルールに従い、上のフライヤーは下のフライヤーの旋回方向にあわせるとか、後からきたフライヤーは先に回しているフライヤーの旋回方向にあわせる、などといったことを自然に行っています。それはフライヤーの絶対数が少ないからできるというものもありますが、それだけではありません。やはり同じエリアで飛ぶフライヤー同士なら他のフライヤーやグラ

イダーのことをもっと尊重し、理解しなくてはいけません。

「同じエリアで飛ぶフライヤーたちがお互いを知る」のは、決して難しいことではありません。私たちのエリアでは、毎月の各クラブの代表者による理事会をはじめ、年に一度の総会を経て、エリアの管理や行事などにはエリアのフライヤー一人一人が参加することになっています。もう10年以上もこういったことを続けてきて、今ではフライヤー全員の意識の中に、「みんなが楽しく飛び続けるためには、飛ぶことをレジャースポーツととらえるだけではなく、エリアのフライヤー全員が一致協力しあってエリアを維持していかなければならないんだ。」という気持ちで定着しています。

送電線に注意!

今年5月、広島県でハンググライダーが送電線に接触し、墜落してフライヤーが死亡するという重大事故が発生した。この事故が教訓となることを願ったが、8月にもハンググライダーが送電線に触れる事故が起きてしまった。

現代生活に電気はなくてはならないもの。たくさんの送電線が日本の国土に張り巡らされている。思ったとおりには高度を上げられず、視界をせり上がってくる送電線に冷や汗を流したフライヤーは少なくないはず。送電線接触は遠い世界のできごとではない。二度と同様の事故を起こさぬよう、各自十二分に注意しよう。

大切なのは、送電線の位置を知ること、風の向きや強さによるが最低でも100m以上距離をあけて飛ぶこと。自分が負傷・死亡するだけでなく、他者に取りかえしのつかない損害を与えるかもしれないことを忘れてはならない。

あなたは どう 考える？

技能証は、自宅に送ってもらうのと教員から手渡してもらうのと、どちらがいいか。
会員数が多い正会員(都道府県連盟)も少人数のところも、総会での票数は同じ「1票」。
これは公平なのか、不公平なのか。あなたは どう 考える？

この夏、大阪府フライヤー連盟から次の4項目について審議・検討してほしいという要望がJHF理事会に出された。理事会は協議事項としてこれをとりあげ、また、他の正会員やフライヤーの意見を募ることにした。

現在の方法が必ずしも最良とは限らない。さまざまな意見を集め、フライヤーにとって一番の方法を模索しようというわけだ。大阪府連盟と理事会、それぞれの言い分を読み、あなたはどのように考えるだろう。(以下は大阪府連盟の要望と、JHF会長名で出された見解をまとめたものであり、原文どおりではありません。)

1 技能証の送り方

JHF事務局が2000年6月1日以降に申請を受け付けた技能証は、申請したフライヤー個々に郵送される。以前は、教員の希望があれば、教員/スクールに一括送付しており、そのサービスがなくなったことに対して、

要望

技能証はすべてフライヤー個人に送られるようになったが、希望する教員/スクールには、従来のように一括送付してほしい。

理由(A)

教員/スクールは「おめでとう」と技能証を直接スクール生に手渡し、その機に進級に対する心構えや技能程度に応じた注意事項を話し、互いの信頼関係を深めている。技能証を教員から受け取ることは、スクール生にとっては卒業式であり「次もやるぞ」と励みになる。

また、技能証を個人送付されると、教員/スクールでは、スクール生の技能証取得状況がわからない。JHFに問い合わせれば、スクール生に発行された技能証がわかるそうだが、教員自身が認定し申請手続きをした技能証の発行について問い合わせるのではなく、本来ならJHFがフライヤーに技能証を発行した時点で、認定した教員にも確認書を発行するのが当然だ。しかし現行方式ではそれが行われていない。

JHFがフライヤーの組織であることは理解しているが、教員もこのスポーツの普及、発展に尽力しており、技能証システムにおいて教員とJHFが一体となって活動できるよう配慮してほしい。

理由(B)

学科検定に合格してから2年以内に実技検定にも合格して技能証の申請をしなければならないが、高齢のスクール生では上達が追い付かないこともある。そんな場合、もう一步の人には「あと少しで技能証を取得できるので頑張りましょう」と、まず技能証の申請をして、本人がきちんと技能を身につけるまで、発行された技能証を教員が預

かるようにしている。決まりから言えば、学科検定を受け直せばいいのだが、我々の技能証は国家試験ではなく、杓子定規に考えるべきものではない。スクール生本人のことを、またスカイスポーツの発展を考えてこのような配慮をしている。

ところが、技能証が個人送付されると教員が預かることができないので、あと一步の場合は技能証申請をすることができない。このやり方に賛否両論あることは承知しているが、教員の立場としては、スクール生の事情を汲んであげる必要がある。

理由(C)

現在の学科検定は教員が行えるという一見すばらしい制度だが、学科合格証のみ教員が管理し、技能証がフライヤー個人に発行された時点で、それが教員にはわからないというのは、不自然だ。やはり教員としては、学科と技能証とは一貫して管理するのが妥当だろう。

見解

スクールへの技能証一括送付をやめたのは、主に以下の理由による。

(1)技能証は、基本的にフライヤー個人のものである。

(2)スクールに技能証を送られると、なかなか渡してもらえない、技能証と引き換えに次の講習コースの受講を要求されたり、機材の購入を強要されるといった苦情が数多く寄せられてきた。どの教員/スクールと特定するのは難しく、申請者の不利にならないよう、技能証は個人送付している。

(3)事務局では毎日数十件の技能証発行業務をこなしている。その中でスクール別に仕分けし郵送手配をするのは、かなり手間がかかり、人件費も上がる。これまでフライヤー会員への負担をできるだけ小さくしようと検討を重ねてきた結果が、技能証の個人送付である。

参考

技能証発行に新システム導入後、技能証発行1件にかかる人件費の概算は、個人送付で186円、スクール一括送付をしていた頃は279円。年間6,000件とすると、一括送付すれば558,000円多くかかる。郵送料は、個人送付で年間480,000円、一括送付すると336,000円で144,000円節約できる。人件費で多くかかる分から郵送料節約分を引いて、年間414,000円の出費増。一括送付を簡単にするシステム設計をする場合、設計料は20万円以上かかると思われる。

2 技能証申請方式の変更について

要望

現方式ではフライヤー自身が技能証を申

請できるが、その申請が正しいものかどうか、どこで判断するのか。教員のサインや印鑑を登録する制度がないのだから、教員の認定が本物か否かを確認できない。不正を見逃さないために、技能証の申請は個人ではなく、教員のみが行える方式に戻してもらいたい。

見解

指摘のとおり、技能証申請書の教員署名・捺印が本人のものかどうかを確認する手立ては、今のところない。しかし、これまで個人が申請書を送ってきた場合も含めて、不正は一切なかったと考える。今後、不正が行われることがあれば、迅速に対応を考えたい。

3 技能証の送付方法について

要望

現在、技能証は個人に送付されているが、普通郵便のため行方不明になる恐れがある。技能証はフライヤーが一生涯懸命努力して手にする大切なもの。書留等で送るのが常識だ。書留は普通郵便料に420円プラスだが、配達記録郵便ならプラス210円で済む。フライヤーの気持ちを考え、送付方法を再考してもらいたい。

見解

フライヤー会員の情報管理の態様が向上したため、郵便事故の発生が極めて低いのが現状。今後、事故が増えるようなことがあれば、対策を検討する。

4 総会の議決権について

要望

総会では、47都道府県の正会員が1票ずつ投票する権利を持っている。しかし、連盟の総会が国の国会にあたと考えると、都道府県別のフライヤー数によって票数が変わらないとおかしい。フライヤー会員登録制度が軌道に乗り、各県のフライヤー数は確実に把握できるはず。人数の少ないところと多いところが同じ1票では、不公平だ。ぜひ理事会で議論してほしい。

見解

確かに正会員それぞれのフライヤー数には大きな開きがある。47正会員が1票ずつ持つことが公平でないか否か、理事会で判断するより、まず正会員間で意見を出し合ってもらいたい。

あなたのご意見を以下にお寄せください。11月10日(金)まで。

JHF事務局 FAX.03-5840-8312 Eメール:jhf@skysports.or.jp 氏名・連絡先を明記してください。



県連だより

名護市嘉陽エリア。沖縄のリッジは超安定。

沖縄県ハング・パラグライディング連盟 海風でのんびりソアリング。 **理事長 安次嶺 勉**

今年の夏はサミットの沖縄開催、そして台風の影響を受け、各エリアは静かでした。9月中旬以降、これまでの分を取り戻すかのように各クラブ、スクールはフル活動しています。それでは、シーズンオフのない沖縄から沖縄ハング・パラグライディング連盟（会員数200名）会員活動状況などを紹介します。

沖縄フライトのワンポイントアドバイス
県内にはHG、PG合わせて約15ヶ所のフライトエリアがありますが、そのほとんどは海風利用のリッジソアリングがメインです。平均100m前後のリッジには風速4～6m/秒の風が吹いていなければ良いリフトはできません。

強めの風でのテイクオフはフロントライズアップだと後方に持っていかれやすいので、クロスハンドライズアップをしっかりとマスターする必要があります。本土のエリアより比較的強い風の中でのフライトには一時的に速度を増加させるアクセレーター、巡航速度を変えるトリム、ウォーターバラスト等が必需品です。飛行中、沖の方から白波が始めたら風が強くなる兆候です。早めに着陸しましょう。

また、万が一、海に不時着した場合に着衣状態で水泳はほとんど不可能です。膨張式浮袋は保険のようなもの。ぜひ携帯したい物の一つです。以前、海沈したフライヤーの身体にラインが絡み、動きがとれなくなってしまったことがあり、ラインカッターで難を逃れた経験もあります。

反面、海風を利用してのソアリングはストレスなく、本当にのんびり飛ぶことができます。山飛びの経験しかないフライヤーには信じられないかもしれませんが、両手を放して、体重移動だけでの長時間飛行や

珊瑚礁の上を「ウミガメ」や「エイ」を眺めながらの遊覧飛行といった具合です。

まだ沖縄フライトを経験していないフライヤーの皆さん、是非いらしてください。

沖縄はMPG天国

県内のモーターパラグライダー（MPG）人口は約25名。一日中安定した海風の吹く沖縄は、MPGにうってつけ。島の周りほとんどが砂浜なので、その日の風向によって風上側に行けば、そこが本日のフライトエリアとなります。毎週末になると5～10機ほどが集まり、編隊変態ではありません。飛行や、クロカンを楽しんでいます。74歳の阿波連（あはれん）氏を筆頭に、平均年齢50歳と割と年配の方が多く、そのパワーはいつも若者たちを圧倒しています。2機以上集まれば、今日はどこまで行こうかと相談が始まります。特にリゾート巡りは楽しいそうです。1ヶ所で飛んでいるより騒音問題も起こりにくいため、周辺住民からの苦情もありません。加えて、民家上空は飛行しないなどの自主規制での努力もしています。

また、夏祭りや、海開き等のイベントにはひっぱりだこ。開会式で宣言文を投下したり、デモ飛行したりして活躍しています。ある村の海開きでは、村長自らタンデムに同乗して、村民をビックリさせたことも。

毎年7月には名護市でMPGフェスティバルを開催。選手、ギャラリー共に楽しめる競技種目で皆さんをお待ちしています。

車椅子フライヤー 鳥袋 秀次氏

19歳の時、仕事上の事故で両足を不自由にしてしまった鳥袋さん。その後、パラグライダーのタンデム飛行の経験をきっかけに、スクールに入校しました。タンデムによる練習、特殊ギアによる単独練習を続け、96年夏、ついにソロ飛行に成功しました。今で

は、台湾の国際大会でも馴染みの顔となっています。最近、MPG（スカイトライク）の単独飛行にも成功。彼の勇気のおかげで、身障者の体験飛行希望者も年々増えています。スカイスポーツもバリアフリーの時代が到来したと言えるでしょう。今後もより多くの身障者の方に体験してもらえよう、皆で努力していきたいと思います。

国際交流

沖縄から一番近い台湾とは、10年以上前からパラグライダー交流しており、毎年、夏と冬2回のツアーを行っています。

一番の人気は、やはり屏東（ピントン）のエリアで、初心者から上級者までが楽しめて、2000m獲得も難しくないのです。続いて花蓮エリア。7月の大会では、大会終了後、県知事を表敬訪問し、今後のより強い交流を確認しあいました。

沖縄県連へのお問い合わせは下記まで。
TEL.098-862-3538（ブルースカイ内）



初飛行前に余裕の鳥袋秀次氏。

県連ニュース

山形県ハング・パラグライディング連盟 [学生選手権のお知らせ]

本年度の学生パラグライダー選手権が11月3日～5日の3日間に南陽スカイパークで開催されます。なお、大会中のエリアは大会優先のフライトとなりますのでご了承ください。お問い合わせは下記まで。

学生選手権実行委員会代表 安部典昭
TEL.090-8616-1132
山形県連盟事務局 TEL.0238-40-2149
E-mail: soaring@d3.dion.ne.jp

[記:金井誠]

宮城県ハンググライディング連盟 [県連主催の催しの報告]

去る7月1日、オニコウベエリアにおいて空祭りが行われました。当日は天気はよかったものの、風が強く、フライトはできませんでした。しかし、場所をオニコウベコミュニティセンターに移して、ゲームなどを行い、大変盛り上がりました。去年も雨で、2年連続で飛べない空祭りになりましたが、会員一同がそろそろ滅多にない機会なので、有意義な一日になりました。

去る9月15日に国営みちのく杜の湖畔公園においてパラ・ハングの無料講習体験会が行われました。当日は天気にも恵まれ、受講者が約80名にもなり、空に浮かぶ体験をしてもらいました。今年は女性の参加が多く、中にはスタッフに熱心に質問する方もいました。この中から少しでも私達の仲間になってくれる人がいたらいいなと思いました。

[記:今井政秀]

栃木県ハング・パラグライディング連盟 [県連のホームページのお知らせ]

栃木県連盟では、専用ホームページの開設準備中です。栃木県内のハング・パラグライディングエリアの紹介や、イベントの案内など、皆様に必要な情報を手軽に引き出していきたいと思います。どうぞ、お楽しみに。

[記:谷田重雄]

茨城県ハング・パラグライディング連盟 [2000年度定期総会の報告]

8月26日に開催した2000年度の定期総会には出席者11名、委任状37人分で定足数をクリアし、成立しました。

総会の議題は1999年度の事業報告、会計報告、2000年度事業計画、予算計画などでしたが、いずれも賛成多数で原案を可決しましたが、いずれも賛成多数で原案を可決しましたが、詳しい内容はホームページ(<http://tomato.saino.ne.jp/haku/kenren/>)に掲載します。議論は午後8時の閉会まで熱心に行われました。

2000年度新役員

理事長:板垣直樹
副理事長:田中栄一、宮沢明
理事:17名(氏名略)
監事:山本貢
事務局長:大澤豊

事務局:〒315-0164 茨城県新治郡八郷町小屋1276 パンプハンググライダーサービ
ス内 FAX.0299-44-1346

県連事務局からのお願い:県連事務局とJHF事務局と両方から2通JHFレポートが送られてきている方は、県連事務局まで連絡してください。県連の経費を削減できますので是非ご協力をお願いします。

FAX.0299-44-1346

E-mail haku@pop16.odn.ne.jp [記:大澤豊]

東京都ハング・パラグライディング連盟 [都連主催の大会のお知らせ]

2000年10月28日・29日に茨城県八郷町のエアパークCoolにおいて、都大会を開催します。奮ってご参加ください。連絡は下記まで。

東京都連盟事務局 宮川一郎
TEL・FAX.03-5490-1129 [記:宮川一郎]

神奈川県ハンググライディング連盟 [イベントのお誘い]

神奈川県連では、下記のイベントを予定しています。ぜひ、ご参加下さい。

KHPF無料体験会

11月4日に横浜市神奈川区神橋小学校で小学生対象の体験会を行います。連絡先はTEL.045-481-2448です。

KHPF 教員・助教員更新研修会

11月14日に横浜市西区神奈川県民センターで行います。希望者は県連事務局まで。

KHPF 学科検定会

12月3日に横浜市西区神奈川県民センターで行います。希望者は県連事務局まで。

KHPF 理事会

12月5日に横浜市戸塚区東戸塚地区センターで開催します。参加自由です。連絡は県連事務局まで。

KHPF 助教員検定会

12月23日に県連事務局で行います。お問い合わせは県連事務局まで。

神奈川県連盟事務局 TEL.0460-3-5391

[記:中村ヤスヲ]

福岡県ハング・パラグライディング連盟 [火山カップ2000の報告]

9月9日・10日に福岡県連主催でビギナー対象の「火山カップ2000」が予定されていましたが、台風接近の悪天候のため、残念ながら競技は中止となりました。しかし、当日は、県連の教習委員の富重、小山田両氏によるツリーラン講習が行われました。なお、「火山カップ2000」は日を改めて開催する予定です。

[記:越智善治]

長崎県ハング・パラグライディング連盟 [レスキューパラシュートのリバック講習会の結果報告]

9月17日、レスキューパラシュートのリバック講習会を開催しました。

レスキューパラシュートのリバックの重要性については、JHFレポート9・10月号にも掲載され、タイミングの良い講習会となり、17名の参加がありました。各自ハーネスを着け、シミュレーターを使って、グリップをつかむ、引き出す、投げるの基本動作を体験した後、リバックを実施しました。

[記:江口章義]

片桐正登さんから呼びかけ 集中豪雨被害に遭った平谷村に義捐金を

9月中旬に東海・甲信地方を襲った集中豪雨で、パラグライダーエリア高嶺山のある長野県平谷村も甚大な被害を受けました。

総世帯数262世帯、人口674人の平谷村で、85世帯の家屋浸水(床上浸水39世帯)という、たいへんな被害です。役場庁舎には濁流が流入し、電算機・電話・防災無線が使えなくなり、診療所・保育所も浸水。水道施設が壊れ9月18日現在、給水車により飲料水を確保している状態です。

田畑・道路・山林等の被害も甚大です。高嶺山のテイクオフ地点へ上がる村道も、入口

から約1kmの所で10m以上大きく崩壊。簡単には復旧できないと判断し、10月15日・16日に予定していた「2000PG高嶺山カップF1」は中止に決定しました。

このような被害を見れば、平谷村のように財政規模が弱小な村が、この災害から復興するのは、非常に困難であることをご理解いただけると思います。

パラグライディングは地域の方々の理解と協力がなければ成り立ちません。それにも増して我々高嶺山のフライヤーは常時、平谷の人々の暖かい支援を受けてきまし

た。このようにパラグライディングを支援して下さった平谷村の復興への一助になれば、義捐金を思い立ちました。ご理解・ご賛同いただけるなら、いくらでもかまいませんのでご協力をお願いします。

義援金の払込

郵便局の「電信払込依頼書」で。

口座は11180 - 9926461 片桐正登

手数料が340円かかりますがよろしく願います。

JMB中部パラグライダーズスクール片桐正登

委員会の動き

PG競技委員会 委員長 曾我部 真人

昨年秋CIVLから発表された、世界選手権の出場枠の問題で、FAIポイントを稼ぐ必要性が出ましたが、選手、主催者の協力を得て、早くからこの問題に着手でき、日本選手はFAIランキングで国別5位という素晴らしい成績を収めています。個人では川地選手が総合4位、辻選手が総合5位と輝かしい順位です(9月20日現在)。

今年度中にも国内でFAIカテゴリー2大会が2戦予定されています。委員会は来年度に向けてこのカテゴリー2大会の調整と、選手、主催者にとって負担の少なくなるようなルール改正を行っています。これに伴いジャパンリーグ、公認大会も大きな動きを迎えて調整中です。

世界を睨む選手だけではなく、次の世代、そして楽しみとして大会をとらえているパイロットの期待に添えるように頑張っています。また、来年6月のスペイン・グラナダでの世界選手権を控え、選手の手助けができるように動いていきます。

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

秋も深まり、2000年の競技も残りわずかとなってきました。今年は天候に恵まれず、ポイントシステム大会で成立した大会が少なく、イライラしていた方も大勢いたのではないのでしょうか。来年にはスペインで世界選手権も開催されます。クラス2はまだポイントシステムが確立していないので、選考大会を開催してゆく予定です。どしどし参加して世界を目指してください。

2001年のルール改訂案をホームページに掲載していますので、皆様のご意見を聞かせてください。

9月に開催された「ハンググライダー・奥羽ラリー選手権2000」10月の「デサントパードマンカップ2000」「リジッドウイング Autumn Race」の結果をホームページに掲載しています。

2000年のポイントシステム最終戦となる「HANGGLIDING関西選手権2000」が11月1日から5日まで予定されています。詳細はホームページで。どしどしご参加ください。

2001年度日本選手権開催地は茨城県八郷町板敷山エリアの予定。開催日程は2001年3月18日(日)～24日(土)です。また、FAIカテゴリー2の公認を予定していますので、参加予定の選手はスポーティングライセンスの取得を忘れずに!

尚、事務局にメールをくだされば競技委員会インフォメーションをお送りします。
HG競技委員会事務局 FAX.0299-44-1346
E-mail:haku@tomato.saino.ne.jp
<http://tomato.saino.ne.jp/haku/JHF-HG.html>

教習検定委員会 委員長 小野寺久憲

・ご意見、提案をお願いします

教習検定委員会では来年度に行う「教員研修検定会」と「教員更新講習会」の計画を作成中です。特に「教員更新講習会」の開催方法については、当事者の教員の方々や各都道府県連盟、会員の皆様のご意見が必要不可欠です。今年度の開催方法を参考にして、たくさんのご意見、ご提案をJHF事務局あてお送りください。

・模範実技ビデオ制作中

PGパイロット課程の模範飛行ビデオの撮影が進んでいます。パイロットを目指す方や教員、助教員の方々にとって必見のバイブルとなるでしょう。撮影・編集はプロに依頼、複数のプロ仕様カメラによって撮影された画像は鮮明でリアルなもの。細部の手の動きなどもしっかり捉えられています。このビデオテープは、本年度の「教員研修検定会」と「教員更新講習会」の参加者に配布される他、JHFでも頒布する予定です。

補助動力委員会 委員長 山崎 勇光

MPG(モーターパラグライダー)やMHG(モーターハンググライダー)は、動力による特性と滑空機としての飛行性能を兼ね備えており、この両者の特徴を最大限に利用することで、限りなく鳥のように飛ぶことのできる可能性を秘めた翼という道具です。この道具を活かすも殺すもパイロットの腕次第、いや心次第ということをお忘れではありません。

私たちは翼と補助動力という素晴らしい道具を使い鳥のように大空を自由に飛ぶ力を手に入れました。しかし、社会的に本当に認知されたといえるのでしょうか。ほんの一部のパイロットの行為で、空の暴走族との嫌なレッテルを張られたのも過去の実事です。今ある自由を本当のものとするには、フライヤー個々が手をつなぎ、お互いに学び、学びあう心で空と社会をつなぐ努力をさらに押し進めなくてはなりません。

9月の会議は以上をテーマに進めます。

10月20・21日はMPG日本選手権が、富山県黒部市河川敷公園で開催されます。フライヤーの皆さんの応援、よろしくお祈りします。

制度委員会 委員長 小林 秀彰

現在、制度委員は2名のみ。理事会から新たな諮問事項も出されており、一日も早く欠員を埋め、積極的に委員会活動を行いたいと考えています。

JHFのために一肌脱ごうという前向きな方、ぜひ制度委員に立候補してください。ご連絡はJHF事務局まで。TEL.03-5840-8311
Eメール:jhf@skysports.or.jp

安全性委員会 委員長 西本 一弘

常設委員会の一つとして新安全性委員会が発足しました。第1回目の委員会を8月28日に開催し、委員長に西本一弘、副委員長に城涼一が選出されました。

新しいJHF安全性委員会運営規程のもと、本委員会の事業を行うことを委員全員が確かめ合いました。また、ハング・パラグライディング用機材に関する事業を島野委員、フライヤーの安全に関する事業を後藤・野口委員、ハング・パラグライディング環境に関する事業を城委員が、それぞれ担当することになりました。

本委員会の目的は、JHFの目的に沿った公正中立な機関として、科学的及び技術的見地からハンググライディング・スポーツの安全性を確保することを謳っておりますので、これから任期満了まで、公正中立な機関として頑張っていきたいと思えます。

JHSC 型式登録機

9月25日の安全性委員会(JHSC)において以下の機体が審査を通り登録された。(最新登録状況はJHFホームページの安全性委員会のページで登録機一覧をご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp/>)

輸入パラグライダー

PI-751 NOVA 式 ARGON22 型
PI-752 NOVA 式 ARGON24 型
PI-753 NOVA 式 ARGON26 型

プロトパラグライダー登録

XP-032 DAEKYO 式 EDEL MILLENNIUM 2000 Mプロト型 搭乗者:宮田歩、内藤雅之、山寄光洋、若山朋晴

XP-033 ウインドテック式クオークコンペ25型プロト 搭乗者:松村治之

XP-034 ウインドテック式クオークコンペ27型プロト 搭乗者:三宅立昇

XP-035 ウインドテック式サイレックスコンペ25型プロト 搭乗者:伊藤忠男、大城芳郎

XP-036 ウインドテック式サイレックス25型プロト 搭乗者:伊藤忠男、大城芳郎

XP-037 ウインドテック式サイレックス27型プロト 搭乗者:咲山栄

プロトパラグライダー搭乗者増加報告
DAEKYO 式 EDEL MILLENNIUM #M Lプロトタイプ 宮下啓二
DAEKYO 式 EDEL SECTOR TX

#M(COMP)プロトタイプ 前田悟
GIN GLIDERS 式 BOOMERANG Sプロト 植田明美、田中美由喜、伊澤豊

GIN GLIDERS 式 BOOMERANG Mプロト 宇治山寛

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

9月12日理事会

2000年9月12日(火)13時～18時 場所:JHF事務局会議室 出席:川添喜郎、小林朋子、朝日和博、関谷暢人、横尾和彦、岩間雅彦、田中美由喜、星野納、松田保子、松永文也各理事 欠席:渡邊敏久理事 坂本三津也、宮川雅博各監事 議長:松永文也

横尾事務局長の退職について審議

(公正な審議を行うため、審議事項によって横尾・川添・小林・朝日各理事に席をはずしてもらった。)

横尾和彦事務局職員から退職届けが提出された。賛成5、反対1、棄権2で、これを受理することに決定。2000年9月29日付で横尾職員は退職する(横尾審議不参加)。

横尾職員退職にあたって、退職金は支払わないが特別手当として30万円出してはどうかという提案について審議。監事に確認のうえ、規則上の問題がなければ特別手当てを出すことに、賛成8で決定(横尾審議不参加)。

横尾事務局長/常任理事から辞任願いが提出された。賛成6、反対2で、これを受理することに決定(横尾審議不参加)。

事務局長/常任理事辞任日について審議。本人の希望どおり2000年9月12日とする案に賛成1、職員としての退職日と同じ9月29日とする案に賛成6、次回理事会(10月)とする案に賛成1で、9月29日付で事務局長を辞任、常任理事から理事にかかわることを承認(横尾審議不参加)。

横尾事務局長辞任にあたって、川添会長・小林副

会長の両名に今年度内に限り、当面の事務局長業務を職員扱いで有償で行ってもらいたいと提案があり、これを審議。賛成7、反対1で、小林副会長に業務を依頼することに決定(小林採決不参加)。賛成7、棄権1で、川添会長に業務を依頼することに決定(川添採決不参加)。

川添・小林両者の暫定雇用にあたり、給金について審議。川添は1時間2,000円・小林は2,000円にある金額を上乗せする案に賛成1、両者とも2,000円とする案に賛成5、棄権1で、一律時給2,000円で代表理事と契約をかわしてもらうことに決定(川添・小林審議不参加)。

朝日理事が代表理事として川添・小林両者と契約を結ぶことについて審議。賛成4、棄権2で決定(朝日・川添・小林採決不参加)。

*小林副会長は現在、配偶者の被扶養者だが、この暫定職員としての報酬によって、被扶養者の枠からはずれてしまうため。

PG日本選手権予備費の充当について審議

PG競技委員会から、今年度PG日本選手権の再度開催にあたり、当初予算の経費増額等を協議してほしいという文書が提出されたが、再度開催の予算案が未提出のため、増額する場合は公式審判員に関わる経費分のみとして審議。公式審判員経費に連絡費5万円を加えた額とする案に賛成2、公式審判員経費のみとする案に賛成5、棄権2で、公式審判員経費分のみ増額することに決定。

文書による審議の正式承認

「四国三郎パラグライダー大会」をFAIカテゴリ-2大会として申請することについての文書理事会の結果(賛成8、棄権1、無回答1)を全員一致(9票)で承認。

2000年度教員更新講習会開催要項についての文書理事会の結果(賛成8、棄権1、無回答1)を全員一致(9票)で承認。

クラス2大会のカテゴリ-2申請について審議 HGクラス2の大会「リジッドウイングAutumn Race」をFAIカテゴリ-2大会として申請することについて審議。FAIカテゴリ-2大会としてきちんと運営できるよう指導したうえで、申請を承認することに、賛成8、反対1で決定。

安全性委員会委員任命について審議

安全性委員会の欠員再公募の結果、安田英二郎氏1名が立候補。同氏を委員として任命することについて審議。賛成8、棄権1で、任命を決定。

広報出版局員の任命について審議

松原正幸氏を広報出版局員として任命することについて審議。全員一致(9票)で任命を決定。

大阪府連盟からの要望書について協議

大阪府フライヤー連盟から提出された要望書について協議。1.技能証を教員に対して一括送付の件 2.技能証申請方式の変更について 3.技能証の送付方法について 4.総会の議決権について 以上の各項に対する理事会の見解を大阪府連盟に伝えるとともに、他の正会員やフライヤー会員の意見を聞くため、JHFレポート等で問題提起する。

理 事 活 動 報 告

JHF理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしています。

7月下旬から9月下旬までの活動内容を各理事に報告してもらおう。

会長 川添 喜郎

7月26日:三役(会長・副会長・事務局長)打ち合わせ、理事会準備。27日:理事会。28・29日:琵琶湖で開催の読売TV「鳥人間コンテスト」に審査員として参加。今年から原点に戻りタレントも入れ替わった。8月21日:三役打ち合わせ。事務局人事について協議。23日:経理担当と打ち合わせ。25日:パート募集について三役打ち合わせ。28日:新安全性委員会の初会合。熱の入った協議がなされた。9月1日:パート応募者面接。中高年が多い。4日:スカイレジャージャパンin関宿実行委員会(最終会)に出席。成功裡に終わったSLの総括がなされた。6日:三役打ち合わせ。8日・11日:パート応募者面接。11日:常任理事会、理事会の準備。横尾事務局より事務局職員の辞任届が提出され面談。常任理事会で今後の事務局運営について協議。12日:理事会。横尾氏より常任理事・事務局長辞任届が提出された。理事会はこれを受理。29日付けで職員・常任理事・事務局長辞任を認めた。また当面、事務局業務は小林副会長と私が仕切ることが了承された。19日:副会長と今後の事務局運営について詳細協議。22日、日本マイクロライト航空連盟の特定非営利活動法化祝賀会に出席。

10月より事務局を正常に運営できるよう頑張ります!

副会長 小林 朋子

パラグライディングと補助動力付パラグライディングの日本選手権公認手続き、FAIカテゴリ-2競技会申請手続きを行いました。

CIVLの役員会議を間近に控え、議案の勉強を続

けています。大きな議案の一つである「競技会中に使用するGPSの活用方法」は大きな議論となっています。

9月末で2000年度の前期が終了しますので、フライヤー会員登録・技能証申請数の統計作業を進めています。

常任理事 朝日 和博

四半期の集計によると今年も技能証申請料収入が1割くらい減少しています。これはパイロットを物語っています。こんなに素晴らしいスカイスポーツなのに何故なのでしょうが。

暑い夏も終わり、これからは山の紅葉を楽しみながらのフライトができるシーズンです。1人1人が安全に楽しく飛ぶことが最も大事なことです。

フライヤー会員登録制度が順調に進んでいます。収入も増えてきています。将来に向かって技能証申請料の値下げや、各種事業の予算を検討して会員のサービスに努めたいと努力しています。これから2001年度の事業計画とその予算作成が本格化します。

常任理事 横尾 和彦

9月29日をもってJHF事務局を退職しました。在職中は皆様にたいへんお世話になり、ご指導ご鞭撻いただき、深く感謝申し上げます。職員として平成8年9月1日に就職以来4年1ヶ月の間ありがとうございました。

民法により文部大臣に許可された法人の定款に従い、平成11年3月総会にて選出された11名の理事

の互選によって常任理事・事務局長に選ばれ、その責任を果たすべく努力してきましたが、私自身の適性の点からこれ以上努力することに困難を感じ、まことに勝手ながら退職を決意した次第です。皆様には今後ともこのスポーツの発展にご協力をお願いして、退職のご挨拶とさせていただきます。10月からは理事として活動していきます。

理事 岩間 雅彦

11月14日～18日に教員研修検定会が行われます。今年度は同時に教員技能証の更新講習会を試験的に実施するので、教習検定委員の方々には準備のために多くの時間を割いて頂いています。また、9月26日には教習検定委員会が予定されており、ここでは来年度の教員更新研修会の計画が話し合われる予定です。全国の教員の方ができるだけ受講しやすいように、来年度は開催場所や回数を増やすつもりです。予算の制限や講師の確保といった問題はもちろんありますが、理想と現実とのギャップを少しでも埋められればと思います。

理事 松田 保子

8月31日に広報出版局の会議を開きました。来年度の事業について、またJHFレポートの編集方針について話し合い、フライヤーの安全への意識を高めてもらうことを第一に活動していくこと、結論しました。この会議にオブザーバーとして参加してくれた松原正幸さんが、9月理事会で広報出版局員に任命されることが決定。これで局員は4人になり、局活動の幅を広げられそうです。皆さん応援してください。

@sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。

いつでも心は空の彼方というあなた、必読!

もちろん寄稿も大歓迎。

「お題はなあに?」や「大会報告」、エリア紹介、フライト自慢、

JHFへの意見など、どしどし送ってください。

koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

茨城県の「ふるさとフェスタ」でハング体験。

茨城県ハング・パラグライディング連盟は、9月3日に石岡市いしおかイベント広場で開かれた「ふるさとフェスタ2000(社団法人石岡青年会議所主催)において、無料の「スカイスポーツ体験コーナー」を設けた。お客様にハーネスを来てもらい、初級用ハンググライダーに実際にぶら下がった状態で5mほど持ち上げ、飛んでいる感覚を味わってもらおうというものだった。

昨年の初回は延べ70名ほどだった参加者が、今年は10時から16時で延べ180名余りを数えた。そのほとんどが小中学生で、2回3回

と再挑戦する子供も目立った。最初は心配そうに見ていたお父さん・お母さんも、安全第一の運営に喜んで、しきりにカメラのシャッターを押していた。「もっと高く上げて」という声まで上がったほど。長蛇の列ができ、隣りに設置された「乗馬体験」と並んで、最も人気が高いコーナーだったようだ。

青年会議所から体験シーンのポラロイド写真無料サービスもあったが、予想をはるかに上回る参加人数だったため、午後からフィルムを買い足し、それでも間に合わず、途中で締め切られてしまった。



石岡市・小川町・玉造町・玉里町・千代田町・美野里町・八郷町後援のもと、コンサートやミニ動物園も。

数分の空中散歩を楽しんだ子供たちは、満面の笑みを浮かべて帰って行った。あの中から未来のフライヤーが誕生するのを楽しみにしている。

レポート:茨城県連盟 日下部はく

裸体飛行??

ある暑い夏の日、僕がいつものようにリッジを取っていると、一機の赤いパラが近づいてきた。ふとそのパラのパイロットを見ると、ハーネスの影からたわいな太ももや胸元がチラリ。「＃\$&@!?!、ひゃ、は、裸!!」僕は驚きのあまり、すぐに降りてしまった。しかし、あとで聞いた所によると、その人は、暑くてタンクトップと短パンで飛んでいたらしい。おっちゃん。紛らわしい格好で飛ばんといってくれはりますか?
ペンネーム:バクリ万歳

僕が安全飛行な理由

高度ギリギリで最終パイロンを回った。ゴールへ一直線に引き込んで飛んでいたが、途中で予期せぬ鬼のようなシンク帯が。何をやっても耳障りなバリオの警告音は鳴り止まない。前方のランディング場は、視界の中をどんどん押しあがっていき、さらに、降ろしたらリーチ一発でエリア閉鎖という高級果物畑がせり上がって来た。「ヤバイヨ、コレ、ヤバイヨ。」思わず外人口調になりながらあせてパニックになり始めた数秒後、シンク帯を通過した。その後は無事にランディング。その日以来、僕は安全飛行なのです。
ペンネーム:なべっち。

許された者だけが見られる景色

あの日は逆転層がしっかりはった日だった。それでもソアリングは可能で、移動もそこそこ可能であった。あるとき、今までとは

明らかに違ったサーマルにヒットした。回しているとあっという間に上昇し、逆転層の上に出てしまった。もやもやしていた空気が急に澄みわたり、太陽の光が強くなった。遠くには、その光に照らされた雲海が広がっていた。飛んでいて徐々に自然の美しさにドキッとした瞬間であった。

ペンネーム:耳党

お題はなあに?

笑いと涙(?)の上空体験、大胆告白!

お待ちかね、今回のお題は

「飛んでてドキッとした瞬間。」

かわいい女の子限定です。

飛んでいてドキッとする瞬間? そうだなあ。かわいい女の子と共同センチングする時はドキッとするよね。ずっとお互いを見詰め合いながら飛ぶわけだからねえ。うん。

ペンネーム:風の狩人あずさ2号

未知との遭遇

あれは良く晴れた秋のある日のことでした。

た。私は2つめのサーマルを上げきって北へグライドしていました。そして3つめのサーマルにヒットしたとき... 下から青い物体が上がってくるのが見えました。そいつはぐんぐん高度を稼ぎ、表面の模様までハッキリ見えるようになりました。青頭、首の鈴、キュートな笑顔... そいつの名は... ドラえもん! なんと私はその風船に触れることができたのです。その後のことは何も覚えてないくらい、その瞬間はときめきのひとときでした。

ペンネーム:ウィングレット命

次回のお題は「私、最近～なんです。」

私、最近サーマルに好かれてるんです... とか、僕、最近トンビの仲間になったんです...とかね。

*

このコーナーでは、お題にそった皆さんの体験談をお待ちしています。笑える話、ホロリとくる話、ビックリする話、大歓迎。200字程度の文章にして、EメールまたはFAXでお送りください。ペンネーム、氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスも忘れずに書き添えてください。作品採用の方には、ささやかなプレゼントあり!

Eメール:koho@jhf.skysports.or.jp

FAX.03-5840-8312

「JHFレポートお題はなあにに係」まで。次回の原稿締切は11月15日です。なお、文章の主旨を変えずに編集させていただくことがあります。

パラグライダー

栗山 公秀

今昔物語 第四話 SAPHIR

懐かしのあの機体、忘れられないこの機体、日本のパラグライディング史に名を残す翼、再登場。

1989年の夏頃、可変翼のパラグライダーが登場したというわさが流れました。曰く、必要なときは翼を折りたたんで滑空比を調整すると言うのです。まあ今で言うビッグイヤーコラップス(翼端折り)ですけど、翼が折れる=アクシデントが常識だった当時、とても信じられない話でした。フランスの名門、ITV社のSAPHIR(サフィー)の登場です。

独特なダックテール付のテーパー後退翼、逆流防止弁付メッシュクローズエアインターク、セレットピロタージュハーネス、そして大胆な市松模様と、凝りに凝りまくった機体です。

サフィーのエアインターク、いわゆる“メッシュクローズドインターク”ですが、実は完全に開いていません。

中央部はローサーフェス側にクロスが残っています。翼端部に至ってはリーディングエッジにX状の切れ目を入れて、そこにメッシュが貼り付けられているにすぎません。これこそが逆流防止弁なのです。

ライズアップ時はメッシュの裏のクロスは内側にめくられてエアはキャノピーに充填されますが、十分にラム圧が高まったら内部の空気はクロスを押し出そうとします。エアインタークにはメッシュが貼ってあるため、クロスによってエアインタークは塞がれます。こうしてサフィーは、飛行中はほとんどエアインタークがないデザイン

になります。

この手のインタークは他にADG等の機体で見られました。内部のエアが吐き出されないために翼剛性が上がる、このため潰れに強い機体になる、という考えだったようですが、今この手のインタークはほとんど見られません。

サフィーは、複雑な構造が災いしてリーディングエッジ周りが重くなり、エアの流入が遅くなってしまいました。するとどうなるか? 立ち上がらないんです。

ライズアップが難しい機体でした。そういやこいつを飛ばしていた友人は無風時は絶対飛ばなかったなあ。

また、この機体には専用の“セレットピロタージュ”ハーネスがついています。

現在のハーネスは、機体のライザーが一点に集まったところにかけるカラビナに下がりますが、このハーネスはベンチプレートの四隅から直接ライザーが生えています。つまりベンチプレートの前端にはフロントライザーが、後端にはリアライザーがついているわけです。

これで何ができるか。前後の体重移動でピッチコントロールができる(ハンググライダーのように!)だけでなく、プレートの対角線方向に体重移動することによって翼の左右のピッチをねじるように変えて、効率的なターンができるのです。考案者の名前をとって、グザビエ・ハーネスと呼ばれてい



た時期もありました。昔、西ヶ谷一志氏も愛用していたことでも有名です。

やはりADGやFIREBIRD等が採用していましたが、操作が複雑なことやキャノピー自体の旋回性能が向上したことなどから、現在この手のハーネスは見なくなりました。

これだけ特殊なグライダーだと性能以前に乗りこなせないゲテモノになりがちですが、サフィーはよくまとめられていました。

その後、新型MUSTへ進化しますが、そのころ市場ではサフィーに比べたらあまりに普通な構造の高性能機FALHAWK APEXが席捲しており、成功しなかったようです。

栗山公秀(くりやままさひで)

初フライトは1987年7月、それ以来バラにはまる。コンペにも参加していたが今は月1~2日程度のマンスリーフライヤー(とほほ)。ホームエリアはスカイパーク宇都宮。現在二児の父。

連絡ノート

JHF

フライヤー

制度委員・補助動力委員を募集中

今春、常設委員会の委員を募集しましたが、残念ながら、制度委員会と補助動力委員会は定員に達していません。JHFのために、つまり自分たちフライヤーのために活動してみようと思う方、ぜひ立候補してください。ご連絡は事務局に。

横尾事務局長退職

4年間にわたり事務局業務にあたってきた横尾和彦事務局長が9月29日付けで退職しました。後任者不在のため、今年度の終わり(2001年3月31日)まで、小林朋子副会長が事務局長を兼務します。

横尾氏は10月から理事として活動することになりました。

助教員検定の開催申請書・検定員推薦書

助教員技能証の取得をめざすフライヤーは、正会員(都道府県連盟)が開催する検定会を受けてください。また、助教員検定会を開催する正会員は、必ず検定開催申請書と検定員推薦書を、事務局に送ってください。

教員と助教員更新

2000年12月末日で技能証が期限切れになる教員と助教員には、11月に更新通知を郵送します。お住まいの地域によっては、通知が正会員経由になることもあります。対象となる教員・助教員で、11月末日までに通知が届かない場合は事務局までご連絡ください。

TEL.03-5840-8311

FAX.03-5840-8312

Eメール:jhf@skysports.or.jp

技能証再発行の申請書

各種技能証の再発行を申請する場合は、旧フォーマットの技能証申請書を使用してください。練習生技能証は黄緑色、その他の技能証は薄紫色の用紙です。

技能証申請に技能証コピー添付は不要

最近まで、技能証申請の際は、すでに取得している技能証のコピーを添付していただきましたが、データの整理が進んだため、添付の必要はなくなりました。申請直前に既得技能証を紛失した場合、以前は再発行を受けてから次の技能証の申請をしていただきましたが、それも必要ありません。

JHFレポートがダブったら

フライヤー会員登録者には、JHFレポートを直接お送りしています。都道府県連盟からも送付されレポートがダブってしまう場合は、各都道府県連盟にご連絡ください。

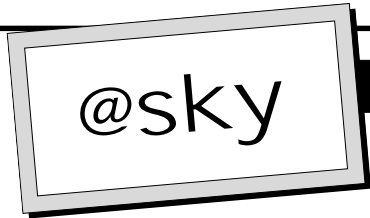
JHFへの意見を求む

JHFへの意見をJHFレポートに掲載します。あなたの考えをFAXまたはEメールでお送りください。匿名での掲載も可能ですが、投稿時は必ず氏名・連絡先を明記してください。

JHFレポート意見箱係

FAX.03-5840-8312

Eメール:koho@jhf.skysports.or.jp



大会報告

パラグライダーフェスティバル in浜名湖2000

2000年7月29日・30日
静岡県引佐郡三ヶ日町 浜名湖フライトパーク

[エキスパート]

1位	鈴木 恵司	愛知県	1000点
1位	永井 信夫	愛知県	1000点
3位	長崎 充孝	静岡県	911点
3位	常泉 雅司	静岡県	911点
5位	千葉 宗正	神奈川県	772点
6位	酒井 高一	千葉県	680点

[SPS]

1位	鈴木 信吾	愛知県	1000点
2位	船戸 哉子	岐阜県	861点
3位	西崎 恭子	静岡県	771点
4位	山崎 義男	岡山県	754点
5位	岡本 菊夫	東京都	738点
5位	斎藤 佳也	山梨県	738点
5位	飯沼 和之	静岡県	738点

初日は、朝の大雨によりコンディションの回復が遅れ、14:30にゲートオープン。短めのタスクとした。ショートタスクながら、サーマルをうまく使い切った者が上位に入り、実力者が入賞した。2日目は東～南東風が強く、キャンセルとなった。 [記:麻生雅宏]

猪苗代パラグライダーカップ2000

2000年8月5日・6日
福島県耶麻郡猪苗代町 猪苗代スキー場

[総合]

1位	才田 敏之	東京都	6227点
2位	角田 春男	埼玉県	5975点
3位	岩間 保之	福島県	5173点
4位	鈴木 俊雄	東京都	4845点
5位	志浦伝一郎	福島県	4665点
6位	桜井 俊秀	宮城県	4597点

[オープン]

1位	鈴木 俊	茨城県	1335点
2位	千葉 恭平	埼玉県	1215点
3位	高木 宏寿	静岡県	1034点

初日は11時にゲートオープンしたが、風待ちの選手が続出。しかし、1時半ごろから雷雲が近づき、有力選手はやむなくランディング。その後大雨になったが、全員飛んで、1本成立。2日目は、地形の読みと、サーマルの掴みどころが勝負の明暗を分けた。

[記:山口幸雄]

2000年HG阿波踊りスカイオープン

2000年8月12日～15日
徳島県勝浦町 勝浦フライトパーク

台風9号の影響により、開会式と同時に初日、2日目の競技キャンセルが決まった。3日目もポイント大会としての競技は無理と判断してキャンセル。ゲームで順位を決めて、大会を終えた。 [記:日下部はく]

2000尾神岳パラグライダー スチューデント チャンピオンシップ

2000年8月17日・18日
新潟県中頸城郡吉川町 尾神岳エリア

[エキスパートクラス]

1位	木下 悟	筑波大学	1000点
2位	呉本 圭樹	東海大学	1000点
3位	香川 宏紀	早稲田大学	1000点
4位	村上 恭子	早稲田大学	875点
5位	西山 和樹	筑波大学	789点
6位	平山 恒逸	室蘭工大	788点

[インターメディアイトクラス]

1位	高橋英史郎	東海大学	1000点
2位	渡辺 紗代	武蔵工大	964点
3位	村沢 慶子	東海大学	954点
4位	狭間 貴雅	芝浦工大	951点
5位	清宮 保典	東海大学	912点
6位	鳥山 聡	芝浦工大	912点

[ピグナークラス]

1位	住吉 唯子	芝浦工大	1000点
2位	一条 浩子	芝浦工大	862点
3位	河村 佳伸	山形大学	861点
4位	高見沢洋和	武蔵工大	693点
5位	斎藤亜里沙	弘前大学	692点
6位	堀池多衣子	千葉大学	655点

[団体総合成績]

1位	BOADER	東海大学	984.67
2位	Hurly Burly	芝浦工大	954.33
3位	Frei Vogel	早稲田大学	908.67

今年で11回目を数える今大会は、毎年、多くの学生たちが集まる。この大会はA級から参加できるので、先輩が後輩を連れて参加できる、とても楽しい大会となっている。今回は、北海道から参加した大学もあった。

大会初日

良さそうな積雲ができています。まずインターメディアイトクラス(以下インタメ)の選手達が次々とテイクオフしていく。このクラスはセットタイムで競う。次第にサーマルが出てきて、インタメの選手が上っていくのをテイクオフ地点で見守るエキスパートクラス(以下エキスパ)の選手たち。みんな雲や木や鳥を見てコンディションの良さを確かめている。

サーマルが活発になってきたためインタメは中断して、エキスパのゲートオープンとなった。エキスパはデュレーション。選手たちはテイクオフして右手の斜面で粘っていたが、どんどん渋くなっていく。沖で上がっているのに気付かなかった選手は、この時点で降りてしまうこととなった。その後、ずっと飛びつづけたのが、筑波大3年の木下選手と同大学4年の西山選手だった。先輩と後輩の戦いに勝ったのは、木下選手。この日なんと4時間40分も飛んでいた。ぶっちぎりの1位であった。

大会2日目

今日も朝から日射はバッチリ。でも、選手の中には、二日酔いで気持ち悪そうな顔をしている人もいる。毎年、盛り上がりすぎる

パーティでは、学校紹介が行われる。今年は、某金融会社のCMのダンスをしてみたり、パラパラを踊ったりするサークルがあった。そして、飲みすぎて冷たくなる人もたくさんいた。そんな次の日。まず、インタメが競技を開始する。時々、上がり始める選手がいたが、まだ渋そう。しかし、この日、申告タイムピッタリに飛んだ選手がいた。明治大学の棚橋選手だ。

テイクオフ地点で待っていると、なんだか背中が涼しく感じる。なんと!フォローですか?? そうなると縄跳びや綱引きなど、いろいろな遊びが次々と繰り広げられた。13時頃まで待っていたが、結局エキスパはキャンセル。それぞれの思いを胸に、山を下りた。

こうして大会は終わった。選手一同次は学選で会うことを約束し、尾神を後にした。

最後に、大会を運営して頂いた、吉川町役場、SET尾神岳の皆様、楽しい大会をありがとうございました。 [記:藤木美穂]

NASA STUDENT CUP 2000

2000年8月22日～24日
茨城県新治郡八郷町 足尾山エリア

[1st Class]

1位	高橋 元樹	NARAHAN	1774.7点
2位	増田 憲治	AIOLOS	1732.5点
3位	磯部さやか	AIOLOS	940.2点
4位	野口 悟	孤独	659.4点
5位	牧野 祐一	東大FALSADA	499.6点
6位	平尾 守	東海大ANIMALS	468.6点

[2nd Class]

1位	篠田 剛	EPO	1930.0点
2位	猪俣 裕哉	AIOLOS	1555.5点
3位	朝倉 泰代	EPO	1438.8点
4位	高木 寛文	早稲田ハング	1372.4点
5位	伊藤 宙陸	AIOLOS	1334.4点
6位	渡邊 昌司	EPO	1322.9点

[団体総合成績]

1位	AIOLOS	筑波大学
2位	EPO	日本大学
3位	NARAHAN	日本大学
4位	孤独	中央大学
5位	アニマルズ	東海大学
6位	EROSPAC	千葉大学

今年も、学生の長く、暑い夏休みに茨城県足尾山エリアでNASAスチューデントカップが開かれた。僕は選手として、そして大会の実行委員長として参加した。このイベントは学生連盟の手により毎年全国の学生ハングフライヤーを集めて行われるお祭り大会であり、今年も北は山形、南は山口から選手が大勢来てくれて、大変面白い大会となった。

8月22日(練習日)

朝から山が見えない。練習日でよかったとほっとひと息。大会の準備をしつつ、昼過ぎに雲底が上がったので爽やかに1本ぶっ飛んでこの日はおしまい。

8月23日(大会初日)

よかった、今日はテイクオフが見える。内藤さん(気象予報士)の情報によると、上空の風は西寄りで雲底は700m~800m。日照次第で900mまで上がる予報。ただし、晴れると積乱雲が発生するかも……。遅くなるとは危険ということで短めのタスクを設定。2nd.クラスでデューレーションをしている選手が低くなっていく中、がんばって上げるが、ミニマムが精一杯。リフライトを試みるがゲートクローズ。大会運営を手伝えという声には耳を貸さずにフリーフライト。なんと!さっきより上がるじゃん。悔しさを胸にファイナルグライドをキメた。

この日はフライトセミナーが開かれ、学生の高橋さん、増田さん、茨城県連の板垣さん、田中さんの熱いトークが繰り広げられた。

24日(大会2日目)

昨日より雲が少なく風が若干強め。条件のピークは12時くらい? 昨日とは違ってかわってみんな出ようとしめない。僕は1st.クラスの中では早めに出たほうで、上がる自信はあったのに、何もできずにぶっ飛んでしまった。全体では増田選手がトップタイムでゴールしていた。

そして今宵はレセプション。かなり大量作ったヤキノバが30秒で消え、ある者たちは飲みながらパラパラを踊って、ぐにゃぐ

にゃになり、またある者は暴走してトイレとお友達になり、そしてある者は耳なし法一のコスプレ(顔面落書き)をさせられ、ets.....大騒ぎは延々続いたのであります。

こうして、学生の、学生による、学生のための大会は無事幕を閉じました。さような



今日のタスクは...フリーフィンクも力が入る。



前列 1st.class 左から増田、高橋、磯部。
後列 2nd.class 左から朝倉、篠田、猪俣。

ら、ナツ(スカップ)。また来年、この封印が破られる日まで.....

Special Thanks: はくちゃん、花岡さん、桜井さん、並びにスタッフの皆様。

[写真撮影:友澤一成 記:照田征史]

鳥取で関西学生連盟 HG&PG 合宿

8月7日から4日間、鳥取砂丘と鳥取県豊石山エリアで、恒例の関西学連主催の合宿を行い、西日本の学生が80名余りも集まりました。

今回はハングとバラの合同合宿だったので、お互いグライダーの飛行特性等を知ることができ、よい経験になりました。また、今年から飛び始めようとする新人たちも他校の仲間と交流できて、よい刺激になったようです。

豊石山ではあいにく天候不良でハングのフライトはできませんでしたが、砂丘ではグライダーを手足の一部にすることを目的に、中味の濃い練習ができました。日本のトップフライヤーであるインストラクターに貴重なお話を聞くこともでき、この合宿はとても実り多いものになりました。ご支援くださった皆様にお礼申し上げます。

[記:関西学連代表 仲本正訓]

8月・9月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング

- 8.1 清宮 芳幸
- 8.1 関根 武志
- 8.1 津久井義晴
- 8.1 佐山 貴子
- 8.1 津野田 守
- 8.1 長谷川幸弘
- 8.1 鈴木智香子
- 8.1 上野 浩
- 8.1 渡辺 啓敏
- 8.2 西尾 忠士
- 8.2 魚崎 久雄
- 8.3 須藤 武士
- 8.3 藤原 勝紀
- 8.3 佐藤 美子
- 8.3 安田 重造
- 8.3 山名 喜嗣
- 8.3 野口三千男
- 8.3 望月 映児
- 8.3 井上 貴志
- 8.3 三井 武雄
- 8.3 岡部 篤史
- 8.7 萩原 智
- 8.7 内田 虎重
- 8.7 吉井 裕
- 8.7 三宅みゆき
- 8.7 富村 順次
- 8.7 加藤 恵美
- 8.7 塚本 由起
- 8.7 井坂 正男
- 8.7 山口 一門
- 8.8 桃井 章和
- 8.8 江口 章義
- 8.8 河西 貴子
- 8.8 藤田 隆
- 8.8 浜井 正和
- 8.8 片山 敦史
- 8.9 兼高 一修
- 8.9 長谷川佳右
- 8.17 阿部 力
- 8.17 大津富太郎
- 8.17 小泉 利明
- 8.17 杉田 寛
- 8.17 吉田 文明
- 8.17 大杉養一郎
- 8.17 星 初男
- 8.17 津留起世志
- 8.17 須田 知弘
- 8.22 加藤 和裕
- 8.22 関口 晋
- 8.22 杉 理
- 8.22 宮地 弘
- 8.23 中野 佑啓
- 8.23 伊東 昭生
- 8.23 熊谷 勝彦
- 8.24 松浦あけみ
- 8.28 伊藤 捷夫
- 8.28 小島 徹
- 8.28 旦保 明
- 8.28 大津 香苗
- 8.28 大平 浩行
- 8.28 藤田 和男
- 8.31 飯田 高治
- 8.31 佐藤日出夫
- 8.31 今井 浩二
- 8.31 堀田 正
- 8.31 松山 強
- 8.31 清家 信康
- 8.31 成田 政幸
- 8.31 柏倉 恵美
- 8.31 宿利 隆信
- 8.31 塩谷 史郎
- 8.31 森田真結美
- 8.31 広瀬 武男
- 8.31 花田 正吾
- 8.31 人見 洋司
- 8.31 出端 好明
- 8.31 佐々木智則
- 8.31 岩坂 直人
- 9.5 山埜 信
- 9.5 野末 昭夫
- 9.5 清水 和則
- 9.5 伊藤 龍一
- 9.5 坂本 鉄郎
- 9.5 花立 淳
- 9.5 河村 泰
- 9.6 毛利 政博

- 9.6 大石さつき
- 9.6 丹野 宏昭
- 9.6 武田 大樹
- 9.7 玉井 宣光
- 9.7 リチャード コバヤシ
- 9.7 有働 仁一
- 9.7 林 竹夫
- 9.7 嶋崎 綾
- 9.7 矢部 武光
- 9.12 白井 健
- 9.12 落合 博文
- 9.12 角田 治朗
- 9.13 下田 成夫
- 9.13 大堀 芳範
- 9.13 鹿志村孝行
- 9.13 宇佐美智春
- 9.14 中野 盛男
- 9.14 菊地 淳
- 9.14 田中 信也
- 9.14 石田 惣吉
- 9.14 安田 宏
- 9.14 小林真由美
- 9.14 増淵 純一
- 9.14 斉藤 真紀
- 9.14 平田 善則
- 9.14 小島 咲美
- 9.14 村田 光一
- 9.14 佐藤 誠
- 9.14 金本 陽子
- 9.14 町田 祐一
- 9.14 大川 清見
- 9.14 竹田 吉範
- 9.20 サイモン ヴェイル
- 9.20 高浜 大介
- 9.20 内村 博伸
- 9.20 高野 清太
- 9.20 斎藤 悦子
- 9.20 志南 伝一朗
- 9.20 依田 政和
- 9.20 森永 智
- 9.20 新井 祐子
- 9.20 磐田 和彦
- 9.20 大野 晋也

空のかお

その34

塚本 由紀さん

(つかもと ゆうき)



初飛びをしてから、ちょうど2年経つという塚本さんは、富山県の立山エリアで飛んでいます。バラは友人の誘いで始めたのですが、今ではエリアで知り合ったご主人と、休みの日には欠かさず通っているというはまりっぷり。立山はスキー場のため、冬は基本的に飛ばません。そのような厳しい条件の中、8月にP証取得となりました。これからの目標は、「もっと遠くへ飛んで行きたいし、来年には大会にも出てみたい」とのことです。「獅子吼や、つくばねなどの、近くにある他のエリアでも飛んでみたい」とも話してくださいました。もうすぐ冬になってしまいますが、寒さに負けず頑張って飛んでください。

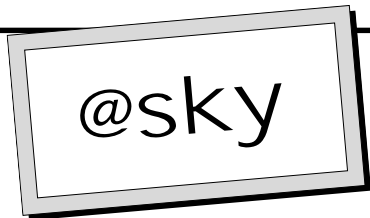
- 9.26 坂井 泰彦
- 9.26 宮里 豊
- 9.26 高橋香嗣郎
- 9.26 高松 隆
- 9.28 野村 昭喜
- 9.28 今井 信政
- 9.28 斎藤 司
- 9.28 小山 辰夫
- 9.28 田中 正夫

- 9.28 斎藤亜紀子
- 9.29 江原 伸一
- 6.28 平地 祐子
- 6.28 安藤 美樹
- 6.29 手登根敏夫

ハンググライディング

- 8.1 葛西 透
- 8.1 梅岡 尚

- 8.1 仲本 正訓
- 8.9 照田 征史
- 8.17 富澤 昭弘
- 8.23 幕内真一朗
- 8.28 小島 賢士
- 8.31 大友 昭範
- 8.31 中井 旭仁
- 9.13 香川 清海
- 9.14 三瓶 学



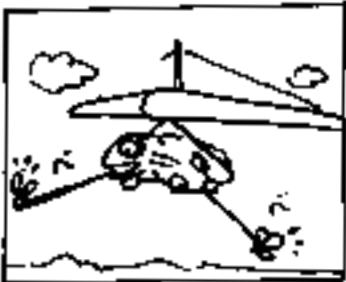
Animal farm

カブトの空を飛ぶ

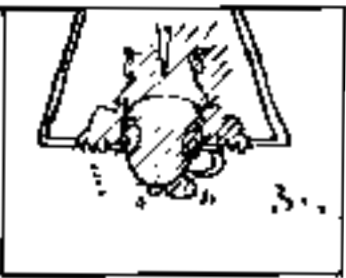


我々に素敵な出会いをもた
らしてくれる。

サイマルは時折地表付近
にいる虫達を吹き上げて



パラキンスにはもちろん
格好のランチタイムだ！



しかし！



落ちついて食事を済めない
のが悩みの種である。

カレンダー

場は開催地、連は連絡先です。

11月							2000
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	
		1	2	3 文化の日	4	5	
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23 地方自治の日	24	25	26	
27	28	29	30				

12月							2000
MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	
				1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23 天皇誕生日	24	
25	26	27	28	29	30	31	

米・こめカップ2000(PG)
10月28日・29日 場福島県熱塩加納村エアパーク三ノ倉 連米・こめカップ実行委員会
TEL.0241-36-3363
東京都連パラグライダーオープン2000
10月28日・29日 場茨城県新治郡エアパークCoo 連東京都ハング・パラグライディング連盟
TEL.03-5490-1129
2000年熱気球日本選手権・佐賀インターナショナルバルーンフェスタ
11月1日~5日 場佐賀県佐賀市 連バルーンフェスタ組織委員会 TEL.0952-33-3955
HANGGLIDER 関西選手権2000
11月2日~5日 場和歌山県那賀郡 紀ノ川フライトパーク 連大会実行委員会 TEL.0729-86-2000
2000年度全国学生パラグライダー選手権
11月3日~5日 場山形県南陽市南陽スカイパーク 連大会実行委員会代表 安部典昭
TEL.090-8616-1132
平和カップ2000in広島(HG,PG両方)
11月3日~5日 場広島県広島市神の倉周辺エリア 連広島県ハンググライディング連盟
TEL.082-231-2023
2000年FLM日本選手権 野田市制50周年記念大会
11月3日~5日 場千葉県野田市野田スポーツ

公園 連日本マイクロライト航空連盟
TEL.03-3519-2645 FAX.03-3519-2646
パラグライダーフェスティバルin東伊豆2000
11月10日~12日 場静岡県賀茂郡三筋山 連大会実行委員会 TEL.0557-95-0220
第17回あぶくま洞オープンカップハンググライディング大会
11月11日・12日 場福島県田村郡滝根町仙台平エリア 連大会実行委員会 代表 佐藤香邦 TEL.024-522-0922
都城スカイプロッサム2000(イベント)
11月11日・12日 場宮崎県都城 連実行委員会 TEL.0986-23-2754
新人戦2000(HG・学生リーグ)
11月18日・19日 場山形県南陽市十分一山エリア 連日本学生フライヤー連盟関東HG支部 牧野祐一 TEL.043-250-1320
2000MOTEGIインターナショナルチャンピオンシップ(熱気球)
11月22日~26日 場栃木県茂木 連茂木バルーンラリー組織委員会TEL.0423-94-8320
フライトインウチタメイヤーズカップ2000(PG)
11月25日・26日 場和歌山県那賀郡 紀ノ川フライトパーク 連大会実行委員会 TEL.0729-86-2000

寄稿大歓迎!!

JHFレポートへの原稿、写真、マンガ、イラスト等をお送りください。作品を掲載させていただいた方には、ささやかなお礼もあり。傑作をお待ちしています。もちろん、ご意見大歓迎。氏名・連絡先を明記して、JHFレポート係にFAXまたはEメールで送ってください。なお、掲載時には文章等を編集させていただくことがあります。

JHFレポート係 FAX.03-5840-8312 Eメール:koho@jhf.skysports.or.jp

次号に続く！

9月30日までのフライヤー会員登録数

登録年数	7月31日までの登録数	8月の登録数	9月の登録数	有効登録数
1年	4,320	1,107	956	6,383
3年	3,041	659	699	4,399
合計	7,361	1,766	1,655	10,782

8月・9月の技能証発行数

ハンググライディング				パラグライディング			
技能証種類	8月の発行数	9月の発行数	9月30日までの発行数累計	技能証種類	8月の発行数	9月の発行数	9月30日までの発行数累計
P証	9(0)	2(0)	4,894	P証	78(11)	62(10)	18,711
C証	2(0)	3(1)	6,863	NP証	86(14)	97(23)	9,330
B証	6(0)	5(0)	11,442	B証	108(27)	92(21)	40,396
A証	6(0)	4(0)	11,849	A証	167(49)	158(47)	44,053
補助動力証	0	2(0)	126	補助動力証	5(1)	0	919
XC証	0	4(0)	1,123	補助動力NP証	0	0	66
タンデム証	0	0	33	補助動力B証	0	0	126
				補助動力A証	0	0	157
				XC証	19(2)	27(7)	3,731
				タンデム証	17(2)	26(1)	366

*()内の数字は発行数中の女性の人数です。

編集を終えて
JHFレポートがフライヤーに伝えねばならないこと。連盟の活動について知らせるのはもちろんだが、安全飛行の情報を優先することに、広報出版局員の考えは一致している。事故が1件でも減ることを願う。 JHF広報出版局

JHF ホームページもご覧ください。
<http://jhf.skysports.or.jp/>

JHFレポート11・12月号(No.162)
発行日 2000年10月20日 定価10円
発行 (社)日本ハンググライディング連盟
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11
春日Shimaビル8階
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312
編集 JHF企画部広報出版局
印刷 日本印刷(株)
この印刷物は再生紙を使用しています。